

追悼 建築家／磯崎新 思考の建築

日本建築界の巨星逝く。

国内外に多数の作品を実現した建築家の磯崎新氏が2022年末に他界されました。

1983年には磯崎氏の代表作ともなるつくばセンタービルが竣工し、2019年には建築界のノーベル賞ともいわれるプリツカー賞を受賞されています。

磯崎氏の関心は建築設計にとどまらず、多数の著作や論文を矢継ぎ早に発表して、建築の世界を絶えず言葉と作品で挑発し続けた稀有な建築家でした。そうした磯崎氏の多彩な活動の軌跡をいくつかの視点から議論するシンポジウムを、つくばセンタービル・ノバホールで開催いたします。

磯崎氏が思考した建築は、様々な試行の果てに、至高の空間をも実現しました。

シンポジウム

日時：2023年3月19日(日) 13:30-15:30 (開場 13:00)

場所：つくばセンタービル・ノバホール 入場無料

パネリスト

渡辺 真理 建築家・法政大学教授・設計組織ADH共同代表

北山 恒 建築家・横浜国立大学名誉教授・法政大学客員教授・awn代表

曾我部 昌史 建築家・神奈川大学教授・みかんぐみ共同主宰

石上 純也 建築家・石上純也建築設計事務所主宰

司会・進行

鶴沢 隆 建築家・筑波大学名誉教授

磯崎新 作品展

日時：2023年3月19日(日) 11:00-16:00

会場：つくばセンタービル・ノバホール ロビー 入場無料

磯崎新の版画を中心とした作品と写真を展示します。

つくばセンタービル 建築ツアー

日時：2023年3月19日(日) 11:00-12:00

集合：つくばセンタービル・ノバホール ロビー 参加無料

解説：六角 美瑠 建築家・神奈川大学教授・六角計画工房ミラトリエ主宰

定員：要事前申し込み 先着40名

つくばセンタービルを解説して回ります。

お問い合わせwebサイト(つくばセンター研究会)の申込フォームにご登録ください。

お問い合わせ 追悼磯崎新つくば実行委員会

webサイト <http://study298.wp.xdomain.jp> (つくばセンター研究会)

eメール tsukuba.center.studygroup@gmail.com



webサイト

アクセス つくばセンタービル・ノバホール

茨城県つくば市吾妻1-10-1

つくばエクスプレス「つくば駅」A3出口より徒歩5分

常磐線「土浦駅」よりバスに乗り「つくばセンター」下車(約30分)、徒歩5分



eメール

主催 追悼磯崎新つくば実行委員会

共催 つくばセンター研究会

協力企業等 鹿島建設/関彰商事/大和ハウス工業/都市開発/筑波銀行

ホテル日航つくば/つくばまちなかデザイン/NEWSつくば

後援 茨城県/つくば市/つくば市教育委員会/つくば文化振興財団

茨城県建築士事務所協会/日本建築家協会茨城地域会/茨城県建築士会

つくば建築研究会

展示協力 ホテル日航つくば/ MISA SHIN GALLERY / YOKOTA TOKYO

Japan Cultural Research Institute

磯崎新による鉛のレリーフ

上：(HAYASHI HOUSE 1977)、中：(YANO HOUSE 1975)、下：(KARASHIMA HOUSE 1978)

(所蔵：ホテル日航つくば) photo © 齋藤さだむ

追悼 建築家／磯崎新 思考の建築

シンポジウム／磯崎新作品展／つくばセンタービル建築ツアー
2023年3月19日(日)／つくばセンタービル・ノパホール

大分県立中央図書館をはじめ、60年代に大分市に集中して実現された建築群から、90年代の国内外各地、バルセロナ、オーランド、クラコフ、岡山県奈義町、京都、奈良、ラ・コルーニャ、山口県秋吉台、ベルリンなど、そして今世紀に入り、中東、中国、中央アジアをはじめとする数多くの最新作まで、どの思想領域にも属さない個人的な思考と空間の展開でありながら、政治・社会・文化に他のどの建築家よりも深く舐触しつつ、それを建築において開示してきた。すなわち建築がその始源からもつ潜在力をとり出してみせることで、他領域の知に対しても大きな影響を与えてきた。また評論や設計競技の審査を通じて、世界のラディカルな建築家たちの発想を実現に導くうえでのはかり知れない支援を果たした。半世紀を越えるその活動は、思想、美術、デザイン、音楽、映画、演劇などに常に建築の枠組みを超えて、時代や他領域を交錯する問題提起を生み出している。

(Arata Isozaki & Associates Web サイトより)

パネリスト略歴

渡辺 真理 (わたなべ まこと 建築家・法政大学名誉教授・設計組織ADH共同代表)
京都大学建築学科卒業後、1977年 京都大学大学院修了。1979年 ハーバード大学デザイン学部大学院修了。1981年 磯崎新アトリエ勤務。1987年 設計組織ADHを設立、木下庸子と共同代表、現在に至る。法政大学名誉教授。主な作品：「NT」(日本建築家協会新人賞ほか)、「兵庫県西播磨総合庁舎」(JIA環境建築賞優秀賞ほか)、「アパートメント東雲キャナルコート」(グッドデザイン金賞ほか)、「真壁伝承館」(建築学会賞(作品)ほか)。主な著書：「コラージュ・シティ」(翻訳、鹿島出版会、1992年)、「孤の集住体」(住まいの図書館出版局、1998年、木下庸子との共著)、「美術館は生まれ変わる」(鹿島出版会、2000年、共著)、「集合住宅をユニットから考える」(新建築社、2006年、木下庸子との共著)など。

北山 恒 (きたやま こう 建築家・横浜国立大学名誉教授・法政大学客員教授・awn代表)
1950年生まれ。横浜国立大学大学院修士課程修了。1978年 ワークショップ設立、1995年 architecture WORKSHOP設立主宰。2001-2016年 横浜国立大学大学院 (2007年より Y-GSA) 教授、2016-2021年 法政大学教授。2021年 awnに組織変更、代表。同時にネットワーク組織AWN (Architects Workshop Network) 設立。横浜国立大学名誉教授、法政大学客員教授、名工大非常勤講師。代表作に「洗足の連結住棟」HYPERMIX」など。受賞歴に、日本建築学会賞、日本建築家協会賞など。主な著書に「都市のエージェントはだれなのか」(TOTO出版)、「モダニズムの臨界」(NTT出版)、「未来都市はムラに近似する」(彰国社)など。

曾我部 昌史 (そがべ まさし 建築家・神奈川大学教授・みかんぐみ共同主宰)
1962年福岡県生まれ。1986年 東京工業大学建築学科卒業。1988年 東工大大学院修士課程修了。1988-94年 伊東豊雄建築設計事務所勤務。1994-95年 東京工業大学助手。1995年 みかんぐみ共同設立。2001-06年 東京芸術大学先端芸術表現科助教授。2006年より神奈川大学建築学科教授。主な作品には「京急高架下文化芸術スタジオ黄金スタジオ」(2008年)、「マーチエキュート神田万世橋」(2014年 日本建築学会賞(業績))、「東北電力奥会津水力館 みお里 MIORI」(2020年 福島県建築文化賞優秀賞)等。著書には「アジアのまち再生」(共著)、「横浜建築」(共著)。

石上 純也 (いしがみじゅんや 建築家・石上純也建築設計事務所主宰)
1974年神奈川県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修士課程修了後、妹島和世建築設計事務所を経て2004年石上純也建築設計事務所を設立。主な作品に、神奈川工科大学 KAIT 工房・KAIT 広場、Vijversburg ビジターセンター (オランダ)、ポタニカルガーデンアートビオトープ/水庭、2019年サーベンタインギャラリーパビリオンなど。2018年パブリカルティエ現代美術財団でFreeing Architecture 自由な建築展。2009年日本建築学会賞(作品)、2010年ヴェネチア・ビエンナーレ第12回国際建築展金獅子賞、2010年毎日デザイン賞、2019年Obel Awardなど受賞多数。

鶴沢 隆 (つざわ たかし 建築家・筑波大学名誉教授)
1950年横浜生まれ。1974年 東京工業大学建築学科卒業。1980-83年 イタリア政府給費生としてフィレンツェ大学建築学部留学。1982年 東工大大学院修士課程修了。1986-90年 多摩美術大学非常勤講師。2004-07年 東京芸術大学非常勤講師。1987-2016年 筑波大学芸術学系講師、助教授を経て同大大学院教授。主な作品には、「視線の方舟 (Sight Ark)」(2013年 神戸ビエンナーレ大賞受賞)、「筑波大学総合研究棟 D」(2004年)等。著書には「未来都市の考古学」(監修、東京新聞)、「ジュゼッペ・テラーニ 時代を駆け抜けた建築家」(INAX叢書)、「アントニオ・サンテリア 新都市註解」(中央公論美術出版)他多数。

六角 美瑠 (ろっかく みる 建築家・神奈川大学教授・六角計画工房ミルアトリエ主宰)
東京生まれ。2001年 筑波大学芸術専門学群卒業。2003年 東京藝術大学大学院美術研究科修了。2003-05年 六角鬼土計画工房。2005年- 六角計画工房 ミルアトリエ開設。2005-10年 東京大学大学院工学研究科博士課程 (2014年 工学博士取得)。2015-21年 東京大学生産技術研究所特任助教。2018-20年 芝浦工業大学デザイン工学部特任准教授。2021-現在 神奈川大学工学部建築学科教授。

水戸芸術館(1990)

磯崎新(1931-2022)

建築家。都市デザイナー。1931年大分県大分市生まれ。1954年東京大学工学部建築学科卒業。丹下健三に師事し、博士課程を修了。1963年磯崎新アトリエを設立。半世紀以上にわたり、国際的な建築家として活動する。また、世界各地の建築展や美術展にてキュレーションやコンペティションの審査を務める。

ハーバード大学、コロンビア大学などで客員教授を歴任。建築の枠を超えて、美術、デザイン、思想、音楽、映画、演劇、政治、メディアなどを横断するプロジェクトを組み立て、多くの理論的著作も発表する。

主な建築作品に、大分県立図書館(現アートプラザ)、群馬県立近代美術館、つくばセンタービル、水戸芸術館、奈義町現代美術館、山口情報芸術センター、ザ・バラディウム(ニューヨーク)、ロサンゼルス現代美術館、チーム・ディズニー・ビルディング(オークランド)、バラウ・サン・ジョルディ(バルセロナ・オリンピック・スタジアム)、深圳文化センター、北京中央美術学院美術館、カタール国立コンベンション・センターなど多数。

主な著作に、「空間へ」「手法が」「建築の解体」「見立ての手法」「造物主義論」「神の似姿」(鹿島出版会)、「Anywhere」(編、NTT出版)、「磯崎新建築論集 全8巻」(岩波書店)、「偶有性操縦法」(青土社)など多数。建築界のノーベル賞と呼ばれるプリツカー賞を2019年に受賞。



Courtesy of Arata Isozaki & Associates



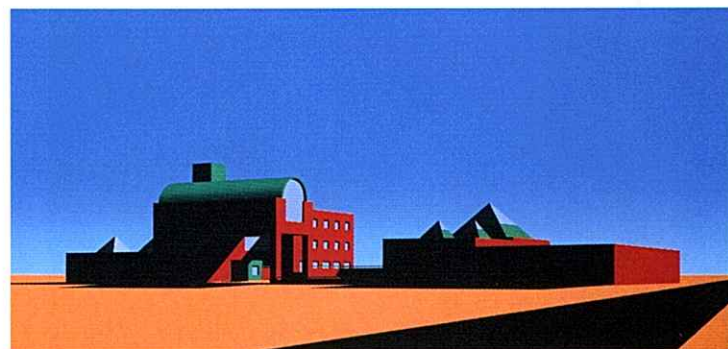
群馬県立近代美術館(1974)

©竹内慎



つくばセンタービル(1983)

©齋藤さだむ



ロサンゼルス現代美術館(1988) シルクスクリーン

©Estate of Arata Isozaki